

【2019年度口語詩句新人賞選考理由】 撰：龍 秀美

## ■新人賞候補

### ・ 高良真実

「日常の中の幻視」ともいうべき独自の感覚を面白く感じました。短歌ではないものに枕詞を使う斬新さや本歌取りの現代の現象を使うテクニックなどの工夫も。行分けにすることで空白行間に物語性が生まれており、この詩型の中で色々なことが出来るという発見があります。

### ・ 霧島ほなみ

作者独自の「物体」への対し方がユニークです。独特の視線と見る力で物体を動かし変身させてしまう「メタモルフォーゼ」の能力と言えるでしょう。それらの視線の先から生まれるユーモアの感覚も魅力的です。

### ・ 山田洲作

投稿数の多さでは群を抜いています。また作者の誠実さと努力の表れとして、文学と共に生きる決意と己の生を見届ける眼が感じられます。

## ■奨励賞候補

### ・ 桜望子

行間の飛躍を狙う抽象的方法と、行と行が意味によって密接に関係づけられている方法とが見られますが、作者の中では矛盾していません。素材の必然性によって表現スタイルと方法が選ばれているのでしょう。

### ・ 青野椰栄

まとまりのある自己の小宇宙を作り、その中で自由自在に遊んでいる感じがあります。謎を

含んだ小宇宙が魅力的です。

- ・ 小雪

行分けによる、場面や思考の転換が上手い。これは、語句が連続する定型ではできにくいことで、口語詩句の一つの可能性を示しています。人間と動物の共感も心地よい。

- ・ 郡司和斗

俳句に近い詩形が多い。しかしこの口語詩句という、文語と季語を外された（少なくとも俳句の季語ではない）場で、作者は自分の感覚に忠実で、より「わたくし」に近い表現を深め、俳句のかたちをした新しい詩を見せてくれました。

- ・ 阿部圭吾

短歌的世界は「自分」を語る人が多いようですが、この作者は口語詩句の詩形を効果的に使い、物や自然など多様な対象にさまざまな角度から迫って成功しています。他者として見る自身の身体に対する視線がユニーク。